

エゼキエル書22-24章「裁かざるを得ない神」

1A 流血の町 22

1B 自分の流した血 1-16

2B 炉の中のかな滓 17-22

3B 町の中の破れ口 23-31

2A 淫行を働く女 23

1B エジプトからの淫行 1-35

1C 姉サマリヤ 1-10

2C 妹エルサレム 11-35

2B 豪奢な食卓と流血 36-49

3A 包囲された町 24

1B 鍋の錆 1-14

2B 妻の死 15-26

本文

エゼキエル書 22 章を開いてください、24 章まで読みます。私たちはついに、エルサレムを滅ぼすという神の裁きの最後の部分を読みます。4 章からその神の裁きの宣言が書かれていましたが、今日でその部分を読み終えます。25 章からは、周辺の国々に対する神の裁きの預言があります。それが 32 章まで続き、33 章からイスラエルを神が回復される預言になります。22 章から 24 章までは、これまでと内容は同じなのですが、これまで以上に、最も鮮明に、生々しく彼らの犯していた罪を神は表現されます。「流血」という言葉が何度も出てきますが、神の前であまりにも明らかにされた罪があり、それを神が裁かないでいられることはできないという明白な理由があるということです。

1A 流血の町 22

1B 自分の流した血 1-16

22:1 次のような主のことばが私にあった。22:2 「人の子よ。あなたはさばくのか。この流血の町をさばくのか。それなら、これにその忌みきらうべきわざを残らず知らせ、22:3 神である主はこう仰せられる、と言え。自分の中で血を流して、自分の刑罰の時を招き、自分の町に偶像を造って自分を汚す町よ。22:4 おまえは自分の流した血で罪に定められ、自分の造った偶像で身を汚し、自分の刑罰の日を近づかせ、自分の刑罰の年を来させた。だから、わたしはおまえを諸国の民のそしりとし、すべての国の笑いぐさとする。22:5 おまえの近くにいる者も、遠くにいる者も、名の汚れた、ひどくかき乱されたおまえをあざ笑う。

2 節にある、「あなたはさばくのか。この流血の町をさばくのか。」という主の言葉が大事です。主が何をもってエルサレムを裁かなければいけないのか、なぜなのか？ということです。私たち人間は、どうして人が神に裁かれなければいけないのか？という問いかけをします。その問いかけの背後には、「そこまで厳しくする必要はないではないか？そこまで悪いことをしていない。」というものがあります。しかし、実は死に値する罪を犯しているからこそ、裁きがあることを示されます。

そしてそれは、「流血」であります。血を流すという罪は、カインがアベルを殺した時以来、人間の中にある悪として引き継がれています。それは必ずしも物理的な殺人だけを意味するのではなく、命の尊厳全般のことを指します。レビ記において、「いのちとして贖いをするのは血である。(17:11)」とあります。肉のいのちは、血の中にあります。ですから、神の与えられた命を蔑ろにする行為は、血を流すことにつながります。そしてその罪は、「偶像」と結びついています。偶像というのは、あらゆる貪りにつながっています。人に与えるのではなく、人から奪っていく行為です。ですから、相手の尊厳を認めないことにつながり、それで血を流す行為であると言えます。

22:6 見よ。イスラエルの君主たちはみな、おまえの中で暴力をふるって血を流している。22:7 おまえの中では、父や母は軽んじられ、おまえのところにいる在留異国人は虐待され、おまえの中にいるみなしごや、やもめはしいたげられている。22:8 おまえはわたしの聖なるものをさげすみ、わたしの安息日を汚した。22:9 おまえのうちのある者たちは、血を流そうと他人を中傷し、ある者は丘の上で食事をし、おまえの中でみだらなことをした。22:10 おまえの中では父が裸をあらわされ、おまえの中では、さわりのある女が犯された。22:11 ある者は隣人の妻と忌みきらうべきことをし、またある者は嫁とみだらなことをして身を汚し、ある者はおまえの中で、自分の父の娘である自分の姉妹をはずかしめた。22:12 おまえの中では、血を流すためにわいろが使われ、おまえは利息と高利を取り、隣人を虐待して利得をむさぼった。おまえはわたしを忘れた。…神である主の御告げ。…

ここで主が取り上げておられる具体的な事は、モーセの律法の中で定められていることです。両親を敬うことは、十戒にあります。在留異国人については、あなたがたがエジプトから出てきたのだから、決して虐げてはならないことを主は命令されました。やもめに対する助けもそうだし、安息日を守ることもそうです。そして性的な乱れについては、レビ記 18 章で具体的に近親相姦についての戒めがあります。そしてわいろを取ったり、利得を貪っていけないことも、律法で定められています。これらは全て、イエス様が律法をまとめられたように、「神を心を尽くして愛し、そして自分自身のように隣人を愛しなさい。」というように、神を敬い、そして人を敬うこと、その尊厳を認めることであります。それに背くということは、全て人に傷を与え、害を与え、それが流血にもつながっています。ですから、これだけのあからさまな罪を行なっているのですから、彼らが裁かれないということのほうが、不正であり、不真実になってしまうのです。だから、裁かざるを得ません。

22:13 見よ。おまえが得た不正な利得と、おまえの中に流された血のために、わたしは手を打ち鳴らす。22:14 わたしがおまえを罰する日に、おまえの心は耐えられようか。おまえの手は強くありえようか。主であるわたしがこれを語り、これをする。22:15 わたしはおまえを諸国の民の中に散らし、国々に追い散らし、おまえの汚れを全く取り除き、22:16 諸国の民が見ている前でおまえにゆずりの地を与える。このとき、おまえは、わたしが主であることを知ろう。」

16 節は「ゆずりの地を与える」という訳は、この新改訳だけです。例えば新共同訳、「お前は諸国民の前で自分の罪によって汚される。」とあります、これがもっと原文に近いでしょう。自分たちの間で行なっている罪が、バビロン捕囚によって、周囲の民に知られることになるということです。主が、彼らが血を流していることに対して、彼らをそこから取り除くことによって、その悪事が暴かれるようにされます。神の民であるにも関わらず、汚れたことをしていることが異教の国バビロンでさらされることとなります。神のなされる裁きというのは、このような形で自分たちの隠しているものが裸にされることによって、行なわれます。「ヘブル 4:13 造られたもので、神の前で隠れおおせるものは何一つなく、神の目には、すべてが裸であり、さらけ出されています。私たちはこの神に対して弁明をするのです。」

2B 炉の中のかな滓 17-22

そして主は、その取り除かれることを、「炉の中のかな滓」として次に表現されます。

22:17 次のような主のことばが私にあった。22:18 「人の子よ。イスラエルの家はわたしにとってかなかすとなった。彼らはみな、炉の中の青銅、すず、鉄、鉛であって、銀のかなかすとなった。22:19 それゆえ、神である主はこう仰せられる。あなたがたはみな、かなかすとなったから、今、わたしはあなたがたをエルサレムの中に集める。22:20 銀、青銅、鉄、鉛、すずが炉の中に集められるのは、火を吹きつけて溶かすためだ。そのように、わたしは怒りと憤りをもってあなたがたを集め、そこに入れて溶かす。22:21 わたしはあなたがたをかり集め、あなたがたに向かって激しい怒りの火を吹きつけ、あなたがたを町の中で溶かす。22:22 銀が炉の中で溶かされるように、あなたがたも町の中で溶かされる。このとき、あなたがたは、主であるわたしがあなたがたの上に憤りを注いだことを知ろう。」

エルサレムの中にいるということが、自分たちの救いの保障となっているという誤った考えを彼らは持っていました。自分たちは、炉の中の青銅や鉄や、鉛であって、火で通されても精錬されるものであって、自分たちは救われると思っています。確かにそこに神への信仰があれば、ペテロの手紙の手紙にあるように、火に精錬される金のように、信仰が清められることはあるのですが、信仰がない時にはその火は自分たちを溶かし、かな滓にする裁きの火であります。自分たちは、エルサレムに残っている、霊的な精鋭部隊だと思っていました。エリートだと思っていました。けれどもそれは逆で、彼らこそが神の怒りの火の中で燃やされるのです。イエス様の時代にも、サドカ

イ派の人たちはその神殿の管理において、自分たちはローマから守られていると思っていましたが、紀元 70 年に神殿が焼かれ、自分たちも殺され、また捕え移されていきました。燃える炉の中でかな滓となったのです。自分が大事にしているもの、これを失いたくないと思って、イエス様よりも大事にするのであれば、むしろそれが理由で救いを失うのです。「マルコ 8:35 いのちを救おうと思ふ者はそれを失ひ、わたしと福音とのためにいのちを失う者はそれを救うのです。」

3B 町の中の破れ口 23-31

22:23 次のような主のことばが私にあった。22:24 「人の子よ。この町に言え。おまえは憤りの日にきよめられず、雨も降らない地である。22:25 そこには預言者たちの陰謀がある。彼らは、獲物を引き裂きながらほえたける雄獅子のように人々を食い、富と宝を奪い取り、その町にやもめの数をふやした。22:26 その祭司たちは、わたしの律法を犯し、わたしの聖なるものを汚し、聖なるものと俗なるものとを区別せず、汚れたものときよいものとの違いを教えなかった。また、彼らはわたしの安息日をないがしろにした。こうして、わたしは彼らの間で汚されている。22:27 その町の首長たちは、獲物を引き裂いている狼のように血を流し、人々を殺して自分の利得をむさぼっている。22:28 その町の預言者たちは、むなしい幻を見、まやかしの占いをして、しっくいの上塗りをして、主が語られないのに『神である主がこう仰せられる。』と言っている。22:29 一般の人々も、しいたげを行ない、物をかすめ、乏しい者や貧しい者を苦しめ、不法にも在留異国人をしいたげた。

雨が降らないことは、神がその地を裁いておられる、一つの徴です(レビ 26:19 等)。そして、指導者から一般の人々に至るまで、あらゆるところで悪を行なっています。25 節に「預言者」とありますが、もしかしたら七十人訳の「君主」のことを指し示しているかもしれません。統治者がしている悪だからです。祭司は祭司で聖と俗なるものの違いを明らかにせず、首長らは賄賂によって正しい人を罪に定め、預言者はこれらを悪とせず、上塗りをしました。そして一般の人々も、身近にいる弱者に働きかけませんでした。いかがでしょうか、どこかに自分自身が当てはまる、戒めになっているのではないのでしょうか。

22:30 わたしがこの国を滅ぼさないように、わたしは、この国のために、わたしの前で石垣を築き、破れ口を修理する者を彼らの間に捜し求めたが、見つからなかった。22:31 それで、わたしは彼らの上に憤りを注ぎ、激しい怒りの火で彼らを絶滅し、彼らの頭上に彼らの行ないを返した。..神である主の御告げ。..」

午前礼拝で話した通りです。22 章で、また他の預言で、このように裁かれることを生々しく、鮮明に語られているのは、かえって神が裁くことをためらっておられるから、と言えます。神は、破れ口を修理してくれる執り成し手を探しておられます。そして、神ご自身が御子を破れ口を修理する方とされて、御子にあつて執り成す者を探しておられるのです。

2A 淫行を働く女 23

そして 23 章は、イスラエルとユダがいかに神に対して不貞の罪を行っていたかを、主は露わにされます。以前も、女王の地位にまで神が着かせてくださったのに姦淫を働く女の姿を主は表しておりましたが、ここではさらに生々しく描いておられます。

1B エジプトからの淫行 1-35

1C 姉サマリヤ 1-10

23:1 次のような主のことが私にあった。23:2 「人の子よ。同じ母の娘である、ふたりの女がいた。23:3 彼女たちはエジプトで淫行をし、若いときから淫行をし、その地で彼女たちの胸は抱きしめられ、その処女の乳房はもてあそばれた。23:4 その名は、姉はオホラ、妹はオホリバで、ふたりはわたしのものとなり、息子や娘たちを産んだ。その名のオホラはサマリヤのこと、オホリバはエルサレムのことである。

イスラエルの民が、エジプトにいる時から淫行をしているという話から始まります。北イスラエルと南ユダに分かれています。初めは同じエジプトにいたイスラエルの民であり、一つでありました。そして彼らが、エジプトにおいて淫行しているというのは、エジプトの中にいた時から世の楽しさを味わっていたということです。そこから脱出して、荒野の旅をしている時から、金の子牛を造って、そこで性的に戯れていました。そしてイスラエルが後に二つに分裂して、ヤロブアムは金の子牛を祭壇に建てて拝ませ、南ユダの王たちも、ついには神殿の中に偶像礼拝を取り入れました。

ところで、オホラは「彼女の天幕」という意味で、オホリバは「わたしの天幕は彼女にある」であります。北イスラエルは自分たちで勝手に祭壇を築き、そこに神が住まわれるとしましたが、主はエルサレムをご自分の天幕にしておられました。イエス様がサマリヤの女に対して、「救いはユダヤ人から出るのですが、わたしたちは知って礼拝していますが、あなたがたは知らないで礼拝しています。(ヨハネ 4:22)」と言われた通りです。それにも関わらず、ユダが偶像礼拝に陥るといふ悲劇をこれから主は語られます。

23:5 オホラは、わたしのものであったのに、姦通し、その恋人、隣のアッシリヤ人を恋い慕った。23:6 彼らは、青色の衣を着た総督や長官で、すべて美しい若い男たちであり、馬に乗る騎兵であった。23:7 彼女は彼らと姦通した。彼らはみなアッシリヤのえり抜きの者であった。彼女は恋い慕った者のすべての偶像で自分の身を汚した。23:8 彼女はエジプト以来の淫行をやめようとしなかった。それは、彼女の若いとき、エジプト人が彼女と寝てその処女の乳房をもてあそび、彼女に情欲を注いだからである。23:9 それでわたしは、彼女が恋い慕う恋人たちの手、アッシリヤ人の手に彼女を渡した。23:10 彼らは彼女の裸をさらけ出し、その息子や娘たちを奪い取り、彼女を剣で殺してしまった。こうして、彼女にさばきが下され、彼女は女たちの語りぐさとなった。

北イスラエルが紀元前 722 年にアッシリヤによって滅ぼされました。代々の王は、一度も、偶像礼拝をやめることはありませんでしたが、その間にアッシリヤが強くなりました。その強さに拠り頼み、アッシリヤに貢物をしました。イスラエルの王メナヘムが、アッシリヤの王プルに銀一千タラントを与えたとあります(2列王 15:19)。しかし、ペカがイスラエルの王であった時、多くの人々が王ディグラテ・ピレセルによって捕らえ移されました(2列王 15:29)。さらにホセア王は、シャマヌエセル王に貢物をしていましたが、エジプトの王ソに使者を遣わしてアッシリヤに反逆しました(17:4)。そのためアッシリヤの王はサマリヤを攻略し、全面的にアッシリヤに捕らえ移したのです。

偶像礼拝というのは、自分の心にある貪りや欲望であります。それは必ずしも、道徳的に悪とは限らず、善であっても、神以上にそれらにしがみついてしまいます。すると、目に見えない神、またその御言葉に頼るのではなく、目に見える形あるものに頼ります。その安心感の拠り所を、当時のイスラエル人はアッシリヤに求めたのです。しかし、目に見えるものに拠り頼めば、その重荷が自分に置かれます。それで憎んで離れようとしても、ついにその罪で自分は滅んでしまうのです。

2C 妹エルサレム 11-35

23:11 妹のオホリバはこれを見たが、姉よりいっそう恋情を腐らせ、その淫行は姉の淫行よりひどかった。23:12 彼女は隣のアッシリヤ人の総督や長官を恋い慕った。彼らはみな盛装をし、馬に乗る騎兵たちで、美しい若い男であった。23:13 わたしは彼女が身を汚すのを見たが、ふたりとも同じやり方であった。23:14 彼女は淫行を増し加え、壁に彫られた人々、朱で描かれているカルデア人の肖像を見た。23:15 それらは腰に帯を締め、頭には垂れるほどのターバンをつけ、みな侍従のように見え、彼らの出生地カルデアのバビロン人の姿をしていた。23:16 彼女はそれを一目見ると、彼らを恋い慕い、使者たちをカルデアの彼らのもとに遣わした。23:17 バビロン人は、彼女のもとに来て、恋の床につき、彼女を情欲で汚した。彼女が彼らによって汚れたものとなったときに、彼女の心は彼らから離れ去った。23:18 それでも、彼女は自分の淫行をさらけ出し、自分の裸をあらわした。それで、わたしの心は、かつて彼女の姉から離れ去ったように、彼女からも離れ去ってしまった。

北イスラエルがアッシリヤによって滅んだ後、ユダは残っていました。これまでイスラエルが通ってきたことをユダは見ました。それにも関わらず、ユダはまったく同じ道を通りました。ユダの王アハズのことを思い出してください。シリアと北イスラエルが連合してユダを倒そうと思っていた時のことです。アハズは、預言者イザヤから、何もなくてもよい、主がこの企みを台無しにしてくださいと聞いたのに、彼はアッシリヤの援軍を頼みました。それでシリアは倒れ、イスラエルも先ほど見たように多くの者が捕らえ移されました。しかも、アッシリヤが滅ぼしたシリアのダマスコで、ある祭壇を見ました。その見取り図をエルサレムにいる祭司に送り、それと同じものを作って神殿の祭壇の横に据えさせた、とあります。アッシリヤにより頼み、しかもその外国の神を欲したのです。

そして、ヒゼキヤ王が、アッシリヤから奇跡的に救われた後のことを思い出してください。彼は、イザヤを通してすぐに死ぬとの宣告を受けましたが、まだ死にたくないと主にお願いと、主はその祈りをかなえてくださいました。ところが彼のところに、バビロンの王メロダク・バルアダンから使者が来ました。その使者に、ヒゼキヤは宝庫、武器庫の中にある全てのものを見せたのです。こうしてバビロンに急接近したのですが、途中でバビロンから離れ、バビロンに対抗するようになります。「彼女の心は彼らから離れ去った。」とあります。しかし、彼女が知らなかったのは、その時に神ご自身も、その心を彼女から離していたのです。これと同じように、私たちの心も主から自分自身を離しているうちに、主との心の間にすれ違いが起こり、断絶が起こります。

23:19 しかし、彼女は、かつてエジプトの地で淫行をしたあの若かった日々を思い出して、淫行を重ね、23:20 ろばのからだのようなからだを持ち、馬の精力のような精力を持つ彼らのそばめになりたいとあこがれた。23:21 このように、あなたはエジプト人があなたの若い胸を抱きしめ、あなたの乳房をもてあそんだあの若い時のみだらな行ないをしきりに望んだ。

バビロンに反逆してからは、エルサレムはついに、かつて自分たちが慕っていたエジプトに助けを求めました。バビロンがエルサレムを包囲したときは、途中で、エジプトのパロ・ホフニが軍を出し、バビロンは対抗すべく一時的に包囲を解除しました。このエジプトに頼る姿を、今ここでエジプトの側めになることを望んでいると形容しています。

23:22 それゆえ、オホリバよ、神である主はこう仰せられる。見よ。わたしは、あなたの心がすでに離れ去ったあなたの恋人たちを駆り立ててあなたを攻めさせ、四方からあなたを攻めによこす。23:23 彼らはバビロン人、すべてのカルデア人、ペコデヤ、シヨアや、コアの人々、それに加えてアッシリヤのすべての人々である。またすべての美しい若い男、総督、長官、侍従、議官、馬に乗る者たちである。23:24 彼らは、軍馬、戦車、車両、および民の大集団を率いてあなたを攻めに来、大盾、盾、かぶとを着けて四方からあなたを攻める。わたしが彼らにさばきをゆだねるので、彼らは自分たちのさばきに従ってあなたをさばく。23:25 わたしはあなたをわたしのねたみとする。彼らは怒って、あなたを罰し、あなたの鼻と耳とを切り取り、残りの者を剣で切り倒す。彼らはあなたの息子や娘たちを連れ去り、残りの者は火で焼き尽くされる。23:26 彼らはあなたの着物をはぎ取り、あなたの美しい品々を奪い取る。23:27 わたしはあなたのみだらな行ないと、エジプトの地以来の淫行をやめさせ、あなたが彼らを仰ぎ見ず、もうエジプトを思い出さないようにする。

バビロンがエルサレムを攻め取る時、バビロンは既に帝国となっていました。諸国、諸民族を征服した後です。ですから、バビロン軍の中には、いろいろな民族と地域の人々がいたのです。当時のアッシリヤ人もそこに含まれています。

こうしてイスラエルは結局、自分たちが初めに味わったエジプトの偶像礼拝と罪の楽しみから離

ることがないままで生きてきました。そして最後にはエジプトに抛り頼んだのです。つまり主を知りながら、再び世の汚れに巻き込まれてしまったのです(2ペテロ 2:20)。そこで、彼女の淫行を止めさせる残された方法は、すべてを奪い去ってしまうことです。肉体を滅ぼせば、物理的に肉欲も抱かなくなります。コリントにある教会で近親相姦の罪を行っていた者について、使徒パウロは、「このような者をサタンに引き渡したのです。それは彼の肉が滅ぼされるためですが、それによって彼の霊が主の日に救われるためです。(1コリント 5:5)」と言いました。おそらく性病にかかったとか、肉体に病を負ったのでしょう。けれども、それで彼が自分のしたことを振り返り、罪を悲しみ、悔い改めるためであります。

23:28 神である主はこう仰せられる。見よ。わたしは、あなたが憎む者の手、あなたの心が離れ去った者の手に、あなたを渡す。23:29 彼らは憎しみをもってあなたを罰し、あなたの勤労の実をことごとく奪い取り、あなたをまる裸にして捨て去ろう。あなたの淫行と淫乱と売淫の恥はあばかれる。23:30 これらのことがなされるのは、あなたが異邦の民を慕って姦淫をし、彼らの偶像であるあなたの身を汚したからである。

貪りや情欲というものは、初め恋い慕っても次に憎むものです。ダビデの長男アムノンのことを思い出してください。彼はタマルを恋い慕って、何もできなくなるほどでした。それで彼はタマルをだまして、自分の部屋に連れて入り、彼女を陵辱したのです。その直後、「ところがアムノンは、ひどい憎しみにかかれて、彼がいただいた恋よりもひどかった。(2サムエル 13:15)」とあります。ですから、自分が恋い慕ってそれから憎んでも、その罪が今度は自分を痛めつけます。

23:31 あなたが姉の道を歩んだので、わたしは彼女の杯をあなたの手にも渡す。23:32 神である主はこう仰せられる。あなたは姉の杯、深くて大きい杯を飲み、物笑いとなり、あざけりとなる。この杯はあふれるほどに満ちている。23:33 あなたは酔いと悲しみに満たされる。恐怖と荒廢の杯、これがあなたの姉サマリヤの杯。23:34 あなたはこれを飲み、飲み干して、杯のかけらまでかみ、自分の乳房をかき裂く。わたしがこれを語ったからだ。・・神である主の御告げ。・・23:35 それゆえ、神である主はこう仰せられる。あなたはわたしを忘れ、わたしをあなたのうしろに投げやったから、あなたも自分のみだらな行ないと、淫行の責めを負え。」

杯は、しばしば神の怒りを受けるときに使われる表現です。怒りによる苦しみと悲しみを経験することを、神の怒りの杯を飲むと言います。イザヤもエレミヤもこのことを語りました(イザヤ 51:17、エレミヤ 25:15 等)。そして新約聖書の預言書である黙示録には、獣の国の住民が、「神の怒りの杯に混ぜ物なしに注がれた神の怒りのぶどう酒を飲む。(14:10)」とあります。私たちは神の怒りはどこかで免れえる、と感じてしまいます。いいえ、神の怒りは飲み干さなければいけないもの、恐ろしいものです。その事を知った上で、ゲッセマネの園のイエス様の祈りを思い出すべきです。「わが父よ。できますならば、この杯をわたしから過ぎ去らせてください。しかし、わたしの願うよう

にではなく、あなたのみこころのように、なさってください。(マタイ 26:39)」

2B 豪華な食卓と流血 36-49

23:36 主は私に仰せられた。「人の子よ。あなたはオホラとオホリバをさばくか。それなら、ふたりに彼女たちの、忌みきらうべきわざを告げ知らせよ。

21章と同じです。主は、彼女たちが裁かれなければいけないこと、その十分な根拠となる罪を明らかにされます。

23:37 彼女たちは姦通し、その手は血に染まっている。彼女たちは自分たちの偶像と姦通し、わたしのために産んだ子どもをさえ、それらのために火の中を通らせて、焼き尽くした。23:38 なお、彼らはわたしに対してこんなことまでし、同じ日に、わたしの聖所を汚し、わたしの安息日を汚した。23:39 偶像のために、自分たちの子どもを殺し、その同じ日にわたしの聖所に来て、これを汚した。彼らはなんと、このようなことをわたしの家の中でした。23:40 それなのに、あなたがたは、遠くから来る人々を、使者を遣わして招いた。彼らが来ると、あなたは、彼らのために身を洗い、目の縁を塗り、飾り物で身を飾り、23:41 豪華な寝台に横たわり、その前に食卓を整え、その上にわたしの香と油とを置いた。23:42 そこでは、のんきなばか騒ぎが聞こえ、都会からの者に、荒野からの大酒飲みが加わった。そして、彼らは、彼女たちの腕に腕輪をはめ、頭には、輝かしい冠をかぶせた。

究極の二重生活をしていました。エルサレムの住民は、忌まわしい偶像礼拝を一方で行っていました。性的な乱れがその儀式に伴っています。そして望まぬ妊娠をします。そしてその赤ん坊を偶像の神に生贄として捧げます。そのことを行ないながら、なおのこと安息日には神殿で礼拝をするのです。これは教会で礼拝を捧げながら、この世の汚れの中に染まっているキリスト者の二重生活に通じます。宗教的な偽善です。そしてもう一つの欺瞞がありました。それは、諸外国との同盟や提携で忙しかったのです。表向きはとても華々しく飾りました。けれども裏では、このように目の当てられないおぞましいことを行っていました。こちらは社会的、文化的な偽善です。

23:43 そこで、わたしは、姦通で疲れきった彼女について考えた。彼らは今、その女と姦淫をしているのではないかと。23:44 彼らは遊女のもとに行くように、彼女のもとに行った。彼らは、みだらな女たち、オホラとオホリバのもとに行った。23:45 しかし、正しい人たちは、姦通した女に下す罰と殺人をした女に下す罰で彼らをさばく。彼女たちが姦通し、彼女たちの手が血に染まっているからだ。」

この正しい人たちというのは、預言者たちであります。この女たちと姦淫を犯していたのは、バビロンに対抗するために同盟を結んでいる「エドムの王、モアブの王、アモン人の王、ツロの王、シド

ンの王(エレミヤ 27:3)」などであります。エルサレムはバビロンによって滅ぼされますが、同じようにこれらの国々もバビロンによって罰せられます。そのことを預言者たちが預言します。

23:46 まことに神である主はこう仰せられる。「わたしは一つの集団を彼らに向けて攻め上らせ、彼女たちを人々のおののきとし、えじきとする。23:47 集団は彼女たちを石で打ち殺し、剣で切り倒し、その息子や娘たちを殺し、その家々を火で焼き払おう。23:48 わたしはこの地からみだらな行ないをやめさせる。すべての女たちは自分自身を戒めて、あなたがたがしたような、みだらな行ないをしなくなる。23:49 あなたがたのみだらな行ないの報いはあなたがたの上により、あなたがたはあなたがたの偶像の罪の罰を負わなければならない。このとき、あなたがたは、わたしが神、主であることを知ろう。」

これらのことが起こって、そこで、今、語られている方が主であることを知るということです。今、ダビデの町と呼ばれる、かつてのエルサレムのあったところで発掘が行われています。そこには、エルサレムがバビロンに陥落した時の跡もあります。家々が火で焼かれて、灰となっている地層が見つかっています。これによって、この方が主なる神であることを知るのです。

3A 包囲された町 24

24 章においては、主が、ご自身が確かに言われたことが真実であることを示すために、日付までも宣言されて語られる箇所です。

1B 鍋の鏝 1-14

24:1 第九年の第十の月の十日に、私に次のような主のことばがあった。24:2 「人の子よ。この日、ちょうどこの日の日づけを書きしるせ。ちょうどこの日に、バビロンの王がエルサレムに攻め寄せたからだ。

この日はちょうどバビロンがエルサレムの包囲を始めた日であり、その同じ日にエゼキエルがその出来事を知りました。「2列王 25:1 ゼデキヤの治世の第九年、第十の月の十日に、バビロンの王ネブカデネザルは、その全軍勢を率いてエルサレムを攻めに來て、これに対して陣を敷き、周囲に壘を築いた。」当時は、もちろん電話も E メールありません。エルサレムで起こったことをバビロンで伝え聞くのに、二・三ヶ月はかかります。だから、エルサレムの包囲が始まった日を前もって伝えることによって、確かにエゼキエルは神の預言を語っていたことが後で証明されるわけです。

24:3 あなたは、反逆の家に一つのたとえを語って言え。神である主はこう仰せられる。なべを火にかけ、これを据え、水をこれに注ぎ入れよ。24:4 これに肉の切れ、ももと肩の良い肉の切れをみないっしょに入れ、えり抜きの骨でこれを満たせ。24:5 えり抜きの羊を取れ。なべの下には、ま

きを積み、よく沸騰させて、その中の骨も煮よ。24:6 それゆえ、神である主はこう仰せられる。ああ。流血の町、さびついているなべ。そのさびは落とせない。一切れずつそれを取り出せ。くじで引いてはならない。

エルサレムをしばしば鍋としてユダヤ人自身が表現していたので、エゼキエルの意味するところを彼らはすぐ理解したことでしょう。「この町はなべであり、私たちはその肉だ。(11:3)」という言葉を使っていました。エルサレムにいれば安全である、なべのように外敵から守られると信じていたのです。主が、ここで鍋に肉と骨を入れそれを煮込む目的を、「錆を落とす」ためであると言っておられます。この「錆」は彼らの流血の罪です。私たちが使っている鍋やフライパンの錆は、スポンジやたわしで擦ってもなかなか取れないものです。けれども、ぐつぐつ煮込むような料理を作っている時に、たまたま剥がれ落ちることがありますね。これを主は、期待されていたのです。しかし落とせません。それで、肉を一切れずつ出せと命じておられます。これは、エルサレムから王位に着く者を取り出しなさい、という意味です。エホアハズはエジプトに捕らえ移され、エホヤキンはバビロンに捕らえ移されました。

24:7 彼女の血はまだ、そこにある。彼女はそれを裸岩の上に流し、地面にそれを流さず、これに土をかぶせようとしなかった。24:8 わたしは、憤りをつのらせ、復讐するため、その血を裸岩の上に流させて、これに土をかぶせなかった。24:9 それゆえ、神である主はこう仰せられる。ああ。流血の町。わたしもこれにたきぎを積み上げよう。24:10 まきをふやし、火を燃え立たせ、肉をよく煮、味をつけ、骨も燃やせ。24:11 なべをからにして炭火にかけ、その青銅を熱くして、その中の汚れを溶かし、さびがなくなるようにせよ。

レビ記 17 章 13 節に、猟をした獣や鳥の血は、注ぎ出して、土で覆わなければいけないと命じられています。血に肉の命があるからだ、ということです。けれどもエルサレムの住民は、大胆不敵に、あからさまに血を流す罪を犯していた、と神は糾弾しておられます。それで神も、バビロンが残虐な方法で彼らを殺すように仕向けることを宣言しておられます。

それで煮込むだけでは錆が取れなかったのです、そのまま強く燃焼します。その中の料理はすべて燃えてしまい、空になった鍋を続けて火にかけて、それによって錆が剥がれ落ちるようにせよ、とのこと。私たちが例えば、料理をしている最中に電話が来て、鍋に火をつけたままにして長話をし、コンロに戻ってきたら、食べ物がすべて焦げて、鍋のメッキも変色し、剥がれ落ちる程になっていた、ということ想像すればよいでしょう。エルサレムの中はバビロンによって火で焼かれましたが、そして他の肉、つまりエルサレムの住民が殺されていきます。こうやって、彼らの中から偶像と忌まわしい行いを取り除こうとされました。

24:12 しかし、その骨折りはむだだった。そのひどいさびはそれから落ちず、そのさびは、なお、

火の中にあった。24:13 あなたのみだらな汚れを見て、わたしはあなたをきよめようとしたが、あなたはきよくなろうとしなかった。それでわたしがあなたに対するわたしの憤りを静めるまで、あなたは決してきよめられない。24:14 主であるわたしは言った。それは必ず起こる。わたしはそれを行なって、なおざりにせず、惜しまず、思い直しもしない。あなたの行ないや、わざにしたがって、あなたをさばく。・・神である主の御告げ。・・」

エルサレムがバビロンによって完全に滅ぼされるまで、彼らは罪を捨てることをあきらめませんでした。包囲中でさえ、彼らはエジプトが助けしてくれると援軍を期待していました。全ての事には、主からの語りかけがあるのに、それによって自分たちは聖められるのに、彼らはただその窮乏から脱出されることだけを願って、主を求めなかったのです。ここに、主が何とかして彼らを罪から救いたいと願われていることに気づくと思います。しかし、エルサレムを完全に滅ぼすことによってしか、神の憤りを全うされることによってしか、彼らは立ち直れないことを神は知っておられました。

2B 妻の死 15-26

そして、そこにおける死と滅びは、言語を絶するほどのものであることを、主はエゼキエルの妻の死を通して預言されます。

24:15 次のような主のことばが私にあった。24:16 「人の子よ。見よ。わたしは一打ちで、あなたの愛する者を取り去る。嘆くな。泣くな。涙を流すな。24:17 声をたてずに悲しめ。死んだ者のために喪に服するな。頭に布を巻きつけ、足にサンダルをはけ。口ひげをおおってはならない。人々からのパンを食べてはならない。」

なんと奥さんが死んでしまいました。エゼキエルは祭司なので、近しい者が死んでも、髪の毛を振り乱したり、衣を裂いたりしてはならないという神の命令についてはよく知っていました(レビ記 21 章)。けれども、ここでは捕囚の民に対する一つの徴として行なっています。

24:18 その朝、私は民に語ったが、夕方、私の妻が死んだ。翌朝、私は命じられたとおりにした。24:19 すると、民は私に尋ねた。「あなたがしていることは、私たちにとってどんな意味があるのか、説明してくれませんか。」24:20 そこで、私は彼らに答えた。「次のような主のことばが私にあった。24:21 『神である主がこう仰せられるとイスラエルの人に言え。見よ。わたしは、あなたがたの力の誇りであり、あなたがたが愛し、心に慕っているわたしの聖所を、汚す。あなたがたが見捨てた息子や娘たちは剣で倒される。24:22 あなたがたはわたしがするようにすることになる。あなたがたは自分の口ひげをおおわず、人々からのパンを食べなくなる。24:23 頭に布を巻きつけ、足にサンダルをはき、嘆いたり泣いたりしないようになる。ただ、自分たちの咎のために朽ち果て、互いに嘆き合うようになる。24:24 エゼキエルはあなたがたのためのしるしとなり、彼がしたとおりを、あなたがたもするようになる。このとき、あなたがたは、わたしが神、主であることを知ろう。」

エゼキエルが恋い慕っていたのは妻でしたが、ここでは捕囚の民が恋い慕っていたのは、「わたしの聖所」すなわち、神殿です。そうです、彼らはこれらを慕っていました。しかし、それは主への恋い慕いではなく、形だけのものとなっていました。今それを、バビロンによって全てを取り去るようになされます。

当時のユダヤ人は、近い人が死んだ時になるべく大きな声を立てて、泣き喚いて、その悲しみを表現するのが慣わしでした。イエス様が会堂管理者ヤイロの家に入られたとき、死んだ娘のために、人々が取り乱し、大声で泣いたり、わめいたりしていた、とあります(マルコ 5:38)。これは、プロの泣き屋がいたからです。これを大幅に抑制せよ、というのがここでの神の命令です。なぜか？一つは、「互いに嘆き合うようになる」とあります。日常であれば、他の人々は自分の悲しみを聞く余裕があります。だから葬式が成り立ちます。けれども、全ての人々が自分の家族、親戚に亡くなった人がいるのです。聞いてくれる人がいないのですから、大袈裟に泣く余地がないのです。そしてもう一つの理由として「自分の罪のゆえに朽ち果て」とあります。エルサレムが破壊されたことを泣き悲しみ、喚くのではなく、自分の罪のゆえにじつくりと嘆きなさい、という命令です。自分が大切にしているものを失ったとき私たちは大いに悲しみますが、その背後で実は神が自分の罪のために裁かれたのだ、ということを見失うのです。その戦慄の中で、自分の罪を思い、小さく噛みしめて泣きなさいというのです。

本当に恐ろしいことが起きている時は、泣くことさえできません。ホロコーストにおけるユダヤ人、昔の映画ですが、「シンドラーのリスト」に出て来るようなユダヤ人たち、どんなに仲間が目の前で殺されても、一切口から声を出さず、沈黙しています。そのような嘆きであります。

24:25 人の子よ。わたしが、彼らの力とするもの、栄えに満ちた喜び、愛するもの、心に慕うもの、彼らの息子や娘たちを取り去る日、24:26 その日、のがれた者が、この知らせを告げにあなたのもとにやってくる。24:27 その日、あなたはのがれて来た者に口を開いて言え。もう黙ってはいはならない。あなたが彼らのしるしとなる時、彼らは、わたしが主であることを知ろう。』

ここで神は強制的に、エゼキエルがエルサレムに対して物が言えないようにされました。エルサレムが破壊されて、そこから人がバビロンに来て、そのことをエゼキエルに伝えたら、再び口が開くようになるというのです。事実、33章にエゼキエルが再び口を開く場面が出てきます。彼が神に召されるとき、神は、「わたしがあなたの下を上あごにつかせるので、あなたは話せなくなり、彼ら責めることができなくなる。(3:26)」と言われました。それをエルサレムに限定して、行なわれませう。そして再び語るようになる時に、彼らは、この方こそが主であることを知るようになります。

私たちがいつになったら、この方が主であることを知るようになるのか？主は、あらゆる形で示しておられます。日付まで特定して語られました、預言を通して示しておられます。